

# くまざさ

新しい百年へ次の一歩

活躍する湖陵生

## 機長をめざして

### 浜中町から通学

ピーチ 副操縦士

千房 まりさん(湖陵62期)

一昨年8月から、たんちよう釧路空港と関西国際空港を結ぶ格安航空会社(LCC)ピーチが就航しています。搭乗率もよく、釧路空港の利用率アップ、ひがし北海道への観光客入り込み増に貢献しています。

そのピーチに、釧路湖陵高校を卒業し、現在副操縦士として世界を飛び回っているのが千房まりさんです。千房さんは、1992年に釧路管内浜中町で生まれ、浜中町立茶内小学校、同茶内中学校を経て湖陵高校に進学しました。

高校時代は毎日早朝、実家のある浜中町からJR花咲線厚岸駅まで家族に送ってもらい、列車で通学していました。高校時代は空手と弓道部に所属していました。部活動をしながら、時間に制約のある列車通学は大変でしたが「浜中町は、高校を卒業するまで18年間育ててくれた心のよりどころ」と感謝しています。

航空業界へ関心があったのはいつからでしょうか。千房さんは「小学校の時、

パイロットの雑誌を手にかっこいい」と思いました」と振り返ります。パイロットへの憧れは、中学、高校でも変わらず、パイロットの養成コースがある桜美林大学(東京)へ迷わず進みました。現在、パイロットを目指す女性が多いも



の、当時は20人弱のクラスで女性は1〜2人程度。そんな環境の中、英語を含めて基礎学力を着実に身につけ、飛行機の操縦に必要なライセンスを手に入れました。そして、いよいよセスナの操縦桿を握るときがやってきました。滑走路を走り出し、ふわっと浮いたときに

は「不思議な感覚」だったそうです。大学卒業後は、「国内外の就航路線が多かった」ピーチに入社。地上勤務を経験して同社の主力機エアバスA320を操縦するためのさまざまなライセンスを取得、2017年12月から副操縦士として操縦席に座っています。

ピーチが拠点にしている関西国際空港と釧路空港の間は、現在一往復毎日就航しています。運航初日の18年8月1日、千房さんは「ふるさと」への初フライトも果たしました。「それまでは一人の乗客として、小さい窓からしか見えなかった。ふるさと」が、コックピットからは全てが見え、とてもきれいでした」と千房さん。

コックピットでは、操縦士と副操縦士はそれぞれ異なる業務を分担しながら、安全に乗客を目的地まで運行します。海外では、英語の発音がそれぞれの空港で微妙に違うため苦労することもありますが、千房さんは「責任はいつそう重たくなりませんが、機長をめざしたい」と意欲的です。

高校時代、部活動や学校祭など、多くの思い出がありました。「いろいろなことを学んで、将来に生かしてほしいですね」と夢をかなえた千房さんは、後輩にアドバイスをしていました。

星 匠(湖陵30期)

## 目次

親子三代・「十七字の戦争」	2
同窓会総会、ふるさと応援事業	3
誠愛勇から24期	4・5
教職員湖陵会	5

永久保読む会が文化奨励賞	6
学園だより	7
30期還暦同会、教育功績者表彰、編集後記	8

# 昨年6月に親子展

くまざさ編集委員会の奥田泰朗さん(湖陵25期)の父は釧路中学校、娘は釧路湖陵高校を卒業しています。父の日出造さん(釧中19期)は、1925(大正14)年10月に、現在の釧路市川上町の辺りに生まれました。

内も経験したこと。「世の中がそんな仕組みになっていった」と泰朗さんは振り返ります。退職後は児童館に勤めていましたが、今は仕事をしています。

現在94歳。教員として多くの学校に勤務しました。退職後はパークゴルフ関係の仕事に少し携わっていました。釧中時代、うさぎ狩りにかけた等々興味深い話を聞かせてくれます。

泰朗さんは、54(昭和29)年8月に同市柏木町で生まれました。70(昭和45)年3月に卒業し、現在65歳。石油ショックのため都会に職場は少なく、同期生の多数が市役所に勤めました。A組(理数科)ができて2年目でした。泰朗さんも父親同様に教員として多くの学校に勤務しました。父と違うのは音別(現釧路市)・浜中・弟子屈町と管



親子三代の日出造さん(中央)、泰朗さん(左)、朋子さん(右)

昨年6月に、日出造さんと泰朗さんは、同市内のくしろ北8ライビルで「親子展」を開催しました。日出造さんは「65歳から始めた」という水墨画を、泰朗さんは霧多布岬などを顔彩絵の具で描

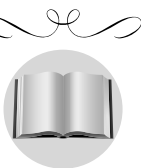
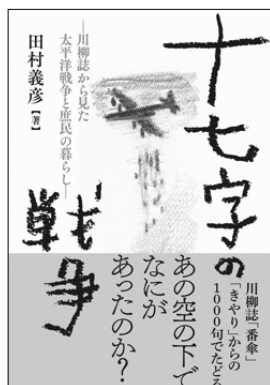
いた風景画。泰朗さんは「父は耳が遠くなっていますが、お客さんが来ると喜んで説明していました」と話していました。

泰朗さんには、娘が2人。2人も湖陵生。写真に写っていない長女、陽子さんは34歳。今は結婚して東京に住んでいます。泰朗さんにとってかわいい孫が3人も。

二女は朋子さん。2009(平成21)年3月に卒業しているのも、もちろん緑ヶ岡の新校舎です。現在29歳。泰朗さんは「小さい時から父親がTVゲームの『ゼルダの何とか』をやっているとじっと見ている子供で、大学もその方面で就職もそんな感じでした」と言います。現在、東京のゲーム会社でプログラマーの仕事をしています。星匠(湖陵30期)



昨年6月の親子展で来場者に説明する日出造さん(左)



## 「十七字の戦争」

田村義彦さん著(湖陵12期)

田村義彦さん(湖陵12期)が、ある川柳関連単行本の編集をきっかけに、現代川柳の資料を集めました。田村さんは、上智大学文学部新聞学科を卒業、出版社を退社後、夕刊紙編集、編集プロダクションなどを経て現在フリーランス。先の大戦の戦時中(1941年12月8日から終戦の45年8月15日)の庶民の日常生活を川柳で表現しました。戦争を知らない世代が多数を占める現代、平和の有り難さが改めて解る一冊です。210ページで定価2200円(税別)、発行はかもがわ出版(2018年)です。写真。釧路東京間フェリーで田村さんと一度同室になりました時、実家は錦町の写真館と聞きました。

田卷恒利(湖陵18期)



25年間行われている湖陵25期同期会

湖陵25期同期会  
釧路湖陵25期同期会(1973年卒)が、昨年9月28日に釧路市内の釧路センターキャッスルホテルで行われました。今回はD組が幹事学級(久保巧 代表)で、50名以上が参加しました。この同期会は25年間続いています。A組からI組まで幹事学級を持ち回りにしており、来年はE組が担当です。

奥田泰朗(湖陵25期)

# 釧中・釧路湖陵同窓会

## 思い出話に花

釧中・釧路湖陵同窓会（島本幸一会長・湖陵19期）の2019年度総会が昨年8月10日に、釧路市内の釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれ、約500人の同窓生が参加しました。



東京、札幌、関西の各湖陵会会長の音頭で懇親会がスタート

物故者への黙祷を捧げたあと、校歌を斉唱、島本会長が「野球部をはじめさまざまな部活動が頑張っています。今後も新しい歴史をつくり上げる生徒たちを変わらず支援を」とあいさつ。議事では18年度の事業経過報告や決算報告、監査報告を満場一致で承認しました。

続いて在校生の合唱部や吹奏楽部、チャリーディング部、応援団による発表が行われました。このうち合唱部は、昨年世界的



クイーンも披露した合唱部



息の合った演奏の器楽部

にヒットした映画「ボヘミアンラプソディー」のモデルとなったイギリスのロックバンド「クイーン」の曲などを歌い、会場を盛り上げました。

懇親会では、当番期を代表して佐渡正幸さん（同37期）が「同窓生の皆さんと現役生徒の活躍で、湖陵の名が世に響き渡ることを願っています」とあいさつ、続いて東京湖陵会の諏訪幹雄会長（同23期）、札幌湖陵会の稲村尊史会長（同26期）、関西湖陵会の小川清至会長（同17期）が乾杯の音頭をとりました。さっそく同窓生は一年ぶりの再会を喜び、近況や高校時代の話に花を咲かせていました。

20年の当番期は、38、48、58期です。



華やかな演技のチャリーディング部



同窓生にエールを送った応援団

### 母校の湖陵に支援を ふるさと応援事業

北海道教育委員会は、道立学校ふるさと応援事業を始めました。これは道立高校を「ふるさと納税」を利用して支援するものです。釧路湖陵高校は「アクティブラーニングを充実させるための環境整備」を目的に資金を募っています。

アクティブラーニングとは生徒が能動的に学習に取り組むことで、同校では医進類型等に係る特別授業やSSH（スーパーサイエンスハイスクール指定校）として自分たちで決めたテーマを1年かけて研究しています。そのためには、インターネットを利用した学習が欠かせないのですが、現在の情報機器整備事業では限度があるため、広く支援を求めることにしました。

同窓生のみならずにも、ぜひご協力をお願いいたします。寄付金募集・寄付金控除の税金優遇措置を受けることができます。

詳しくは釧路湖陵高校のホームページを検索、中央付近に「湖陵高校を応援して下さい」をクリックし、順番に従って進んでください。申込書の記載で注意することがあります。その2番目に「寄附金を活用する学校の指定」という項目があります。そこは必ず①学校を指定する【学校名 釧路湖陵高校】と記載してください。

問い合わせは、北海道教育庁総務政策局教育政策課・政策企画G（〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 電話011-206-6046）までお願いします。

# 元気の源は友達から

## 同期会で少年少女に

湖陵24期 永田 敦子

### 48年たっても

山口百恵のヒット曲「ひと夏の経験」で、あなたに女の子の一番大切な物をあげるわ〜こんなフレーズでドキドキしたのは高校一年生の時でした。大学紛争の余波が漂い、フォークソングで岡林信康が受験生ブルースを歌ってました。頭の中は隣のクラスの子でいっぱいなのに、口では小難



しい体制批判を論じていました。輝かしい青春が確かにそこにありました。

私達は昭和44年入学、同47年卒業の湖陵高校24期です。

あれから48年、そろそろ古希に手の届く年頃になり、紅顔の美少年はすっかり面の皮も厚く、まさに厚顔。楚々とした美少女は、透き通ったほっぺはたつぷりとした二重顎に、輝くような瞳はハズキルーベが必要となり、体型にも若干の異変をきたしています。それでもちゃんづけで呼び合えば過ぎた記憶が蘇ります。

### 二次会は十六番倉庫

我々は平成8年の初幹事以来、毎年同期が集まっています。最初は各クラスの代表幹事が1〜2名程度という状態でしたが、探偵もどきで大活躍するメンバーのおかげもあり、360名中消息不明者は現在50名程度となっています。

同18年、中心幹事期の時には、同窓会後の同期会二次会を浪花町十六番倉庫で開催しました。8月12日午後3時30分同窓会開会。同6時30分同期会開会。同8時30分会

場を浪花町十六番倉庫に移しての二次会でした。

当時の十六番倉庫は、釧路で二番目というNPOで、私はその時、同倉庫の事務局長をしていました。一晚一万円の貸し切りで、オールナイトでの同期会です。

会場内にはキャンプファイヤーを模した設営で、電飾ですが薪が赤々と燃え、学生時代の文化祭、行灯行列を彷彿とさせるものです。準備段階からテンションが上がり、皆で歌おうと、急遽ギターのチームも編成され、歌本も作りました。

是非ともフォークダンスをとリクエストされ、テープも用意しましたが、いざ曲がスタートすると、リクエストした本人はステッパがわからないという悲劇。業務用厨房機器メーカー勤務の彼は、焼き鳥機を持ち込み、にわか焼き鳥屋のオヤジに。ホットプレートでは、我々がミス湖陵の彼女が焼きそばを焼いてくれる。

病院の先生はフォークギターを片手に、友よ〜なんてね。同期同士で結婚し漫画家となったカップルは、のちに大英博物館で日本人初の漫画の原画展を開催しました。ちなみに湖陵卒業の有名人としてネットにも載っていた一人の同期です。78名の同期がな



平成18年の同期会

んと深夜、空が白む頃まで唄い、語り、盃を重ねたのです。

## 同期の人生いろいろ

そして今、長い歳月はそれぞれの人生を大きく変えています。若くして夭折し、思いつくの中に生きています。仕事で成功した者。不幸な結婚を解消した者。パートナーを失った者。新しい人生に挑戦中の者。3人目の奥様を娶った強者。20歳年下と結婚した猛者。家業を継いだ者。大病を乗り越



え社会に貢献している者。両親の介護をしている者。大学の先生になった者。テレビでスーパードクターと紹介されフランスの学会で講演を行った者。失明後、資格を取り鍼灸院を開業した者。郵便局、市役所、コールマイン、など市内の企業を退職し悠々自適の生活を送る者。中学時代20<sup>キ</sup>のダイエットに成功し未だに美ボディを維持している者。グループプラインで昨年の北海道大会を完結した者。Cブロック勝利の時にはあちこちで校歌が歌われていたよう



です。

全国の24期の皆さん、繋がる楽しみ是非参加ください。

## 来年会えることを

在学中、誰もが夢を追っていました。なんでも出来る気がしていました。人生思い通りに、未来は洋々と開けているように考えていました。努力すれば報われ、一生懸命頑張れば夢は叶うと信じていました。

しかし、長い月日の中で失敗や挫折、別離があることを知り、誰もが元気でいられるとは限らないと思ひ知りました。だからせめて夏の一夜、一気に時を遡り、オヤジとオバサンは、少年少女に戻るのだ。また来年会えることを小さな心の支えにして頑張れる気がします。名簿を作ったり、会場を手配したり在組も苦労しました。けれどもみんなの笑顔で報われました。そう、友達は元気の源。

## 釧路教職員湖陵会が研修会



釧路教職員湖陵会(本川敬一会長・湖陵33期)の研修会と懇親会が、昨年11月9日に釧路市内のアクア・ボールで開催されました。写真。

講師に釧路新聞社代表取締役社長の星匠さん(湖陵30期)を迎え「釧路のおもしろさ」という演題でのお話をいただきました。

最初にまとめをしていただき、自己紹介、そして新聞の読み方、最近の話題、出前授業と続きました。1時間弱ではもったいないような内容で、まだまだお話を聞きたいところでした。新聞を通して、楽しく、またさまざまなことを考えさせられた講演となりました。

また、その後の懇親会は、来賓に釧路湖陵同窓会幹事長の青木一晃さん(湖陵27期)を迎え、たいへん和やかに行われました。

奥田泰朗(湖陵25期)

# 鉏路市文化奨励賞を受賞 永久保秀二郎日誌を読む会

## アイヌ教育一筋

令和元(2019)年文化の日、鉏路市文化賞・文化奨励賞授賞式が鉏路センチュリーキャッスルホテルで開かれ、1個人1団体に文化賞、1団体に奨励賞が贈られました。文化奨励賞を受賞した団体が「永久保秀二郎日誌を読む会」(高井博司代表)元鉏路湖陵高校教諭・湖陵6期、以下日記本体を「日誌」、読み解く団体名を「読む会」と略します)です。

永久保は宮城の人で、幕末の嘉永2(1849)年に生まれ、大正3(1914)年に逝去。函館でクリスチャンとなり、鉏路へ移住。春採アイヌ学校の教師に奉職、後半生をアイヌ教育に捧げた人であり、かたわら死の年まで書き継いだ「日誌」は、類書の少ない当時において貴重な「民間記録」となっています。

## 市の有形文化財に

日誌は鉏路在住のゆかりの人が所蔵しており、当時の市立鉏路図書館長だった渋谷耕而さん(故人)と郷土史研究家の中村一枝さん(永久保について著書がある。のち札幌に移住。故人)の懇請と尽力によって、同図書館に原本が寄贈され、昭和50(1975)年には、鉏路市の有形文化財に指定されました。

## 運命の出会い

永田秀郎さん(「読む会」の初代代表。元鉏路湖陵高校教諭。道内有数の演劇人として著名。故人)が、湖陵退職を機会に平成

7(1995)年北海道教育大鉏路校に新設された大学院に入学。

永田さんは永久保という人物のトリコに。明神勲指導教官のもとで永久保を修士課程の論文に仕上げ、これをパスしました。

## 読む会立ち上げ

永田さんは「論文」で満足せず、平成13(2001)年に、「日誌」の完全な翻刻を思い立ち、鉏路市内の元高校教諭3人に「読む会」の発足を呼びかけました。湖陵の同僚だった高井さん、鉏路江南高校OBの吉田幸弘さん、緑ヶ岡高校(現武修館高校)で教諭をしていた村岡冨子さんに声がけしました。週1回、1回約2時間で、会場は旧福祉会館(現プラザ交流さいわい)に集まり、原本の複写や「活字稿」の変換で作業用テキスト一つにまとめたものをほぼ4等分します。そして、担当者はそれぞれたたき台を示し、合議の上一致したものを「手書き草稿」(最終稿)を積み上げ、翻刻を完成させていきました。

使用漢字の判定、草書体の文章の判読の難しさに「さいなまれた」と高井さん。「でもケンカや論争にはならず和気あいあい」と村岡さんは当時を振り返ります。

## やっと日の目見た出版本

行政ベースでは、予算の抑制策(シーリング)をタテに新規事業にはゼロ査定か無視するありさまでした。

同24(12)年の早い時期に「日誌」の出版を



「読む会」の永久保秀二郎日誌

助成する」という連絡が、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構(現アイヌ民族文化財団)から「読む会」に入りました。校正に校正を重ね、CDへの入力も完了しており、鉏路市内の出版社「緑鯨社」(柴田哲郎社長)が請け負い、「永久保秀二郎日誌 翻刻版(正式書名)」を出版しました。A4判、上下2巻、総ページ約900頁、100セットという堂々たる内容です。

これら活字本は、市立鉏路図書館をはじめ他の図書館、公的機関、大学、高校などへ配布、あつという間に手元在庫がゼロに。こうして永田さんからバトンタッチした高井さんらの地をほうような仕事は終わりを告げました。



文化奨励賞を手の高井さん(右)とメンバーの村岡冨子さん

このテの仕事は、暇と知識があればできるのではなくて、志がなければ成し遂げられないというのも真実ではないでしょうか。さらに2年後、同26(14)年には、全国の図書館、博物館連合で運営している文化財テキスト検索システムADDEAC(略称アデアック)に、日誌も加入しました。開始3カ月で約1500件のアクセスがあったほど。これも永久保の名、地方史料の「輪」は、全国に広がりました。

## ほほえましい学校風景

日誌から拾った校内の風景をスナップ風に再現してみよう。

某月某日(コマA)「字が書けました」とアイヌの子供がうれしそうにしています。某月某日(コマB)野良仕事をしていたアイヌの子弟らに、塘路から到着した女宣教師(ペイン・ルーシーさん)が「午後からはティータイムです」と声を掛けます。

2件とも春採アイヌ学校で行われていた教科つまり読書、習字、作文、算数、作法の5教科でした。生徒は21人でしたが、日によって生徒の数は下回りました。

## 荷風を上回る精神性の高さ

日記記録者として永久保を「断腸亭日乗」の荷風と比べると、荷風の日記の方が大正末から昭和30年代までの42年間、永久保は33年間です。しかし「精神性の高さでは軍配をあげたい」と高井さん。さらに「残った私たち(高井さんと村岡さん)だけでは受けませんでした。2人の故人(永田さんと吉田さん)も含めての団体受賞なので承諾しました」と受賞の経過を吐露しました。

日誌が抱える課題について「国連が掲げる先住民族の人権、すなわち生存権を確立しなければいけません」と力説。村岡さんは「郷土を愛する鉏路の中高校生が地域学習の副読本として日誌を読んでもらえれば教師冥利に尽きます。春採のアイヌは、鉏路川河口部から春採、春採から鶴居へ追い立てられた歴史がきちんと書かれています」と長いインタビューの末尾を結んでくれました。

堀川春昭(湖陵12期)

付記 この原稿づくりのために鉏路短期大学の佐藤看紹教授に年末の多忙の中を協力していただきました。改めて謝意を表します。

この1年間を振り返ると多くのことがありました。湖陵高校での主な出来事をお伝えします。同窓生の皆様に母校の様子を知っていただければ幸いです。

### 2019年

#### 〈3月〉第71回卒業式(1日)

240名の生徒が湖陵生としての誇りと夢を胸に抱いて学舎を巣立ちました。そしてこの瞬間、われわれ同窓会の仲間入りです。同窓会からは記念のマフラータオルをいただきました。

#### 高校入試(6日)

例年と変わらず普通科5間口、理数科1間口の募集です。理数科では推薦入試も行われています。多くの中学生が湖陵高校入学を目指して受験しました。今年からは普通科でも推薦入試が導入されます。より多くの意欲あふれる学生が入学してくれることを期待しています。

#### 大学合格発表

3年間の学習の成果が実り、多くの生徒が合格を勝ち取りました。本校生徒の多くが希望する国公立大学には、現役で131名が合格しました。この数字は過去最高であり、快挙と言えるものです。医学部医学科には4名、北海道大学には14名の合格者が出ました。素晴らしい結果です。浪人生も頑張りをを見せてくれました。

#### 教職員異動

5名の教職員が異動されました。転出さ

れた皆さんには在籍期間の長短はあるものの、それぞれが湖陵高校のために大きな力を尽くしていただきました。本当にどうもありがとうございました。

#### 〈4月〉教職員異動

5名の教職員が着任されました。経験豊富なベテランからやる気満々のフレッシュな人まで様々です。どうぞよろしくお願いします。

#### 平成31年(令和元年)度入学式(8日)

227名の新入生が夢と希望を持って湖陵高校に入学しました。湖陵高校で多くのことを学び、社会へと羽ばたいてくれることを期待します。

#### 宿泊研修(17、19日)

1年生全員で研修に出かけました。場所は川湯第一ホテル忍冬です。高校での学習方法について学んだり、エンカウンター(集団づくりプログラム)で交流を深めたり、クラス単位で校歌練習をしました。湖陵74期生の本格的な高校生活がスタートです。

#### 湖陵の日(27日)

P.T.A総会と授業参観、進路講演や学級懇談などを併せて毎年4月の土曜日に行われています。夜はキャッスルホテルに会場を移して、懇親会が開かれました。教職員と保護者で合計64名が参加して、懇親を深めました。

#### 〈5月〉教育実習

今年6名の卒業生が大学を離れて現場での実習を経験しました。生徒にとって年齢の近い先輩であり、新鮮な気持ちで授業に取り組めたようです。どの実習生も「湖陵で実習が出来て良かった」と口にしていきます。母校での貴重な経験を将来ぜひ

生かしてほしいものです。

#### 高体連・高野連釧根支部予選

3年生にとっては最後の大会で、みんな全力で戦ってきました。多くの運動部が団体または個人で全道大会出場を果たしています。野球の支部予選決勝戦(釧路江南戦11対3で勝利)では全校応援がありました。器楽部・応援団・チアリーダーを先頭に、生徒と教職員が熱い応援活動をしました。

#### 〈6月〉高体連等全道大会

山岳部(女子団体)が2年連続宮崎県で行われた全国大会への出場を果たしました。惜しくも全国出場は逃しましたが、男子団体も全道優秀校に選ばれました。陸上部では男子2名(5000m競歩と4000mハードル)が好成績を残し、沖縄県の全国大会へ進んでいます。バスケットボールは湖陵高校が当番校でした。同窓生の中にも大会にご協力いただいた方が多数おられます。ありがとうございました。

#### 〈7月〉湖陵祭(13、15日)

行灯行列やクラス対抗の歌合戦、3年生によるクラス演劇など、湖陵祭の伝統は引き継がれています。特に行灯行列では同窓生の皆様を始め、保護者はもちろん、多くの市民の方々に応援していただきました。ありがとうございました。

#### 〈8月〉第17回統一学校説明会(23日)

毎年この時期に本校体育館を会場として行われる進路指導の最大のイベントです。道内外から約80の大学・短大・予備校等の事業所などが参加して行われました。資料のみの参加を含めると1100になりました。生徒たちは各大学のブースに積極的に足を運び、熱心にお話を聞いたり質問していただきました。一つの高校が主催して多くの大学に参加していただくというスタイルは最近で

こそ他校でも見かけるようになりましたが、実は湖陵高校が最も長い歴史を持つのです。

#### 〈9月〉新人戦・高文連

多くの部が素晴らしい成績を収めました。中でも弓道部は全道大会で大活躍です。男子団体が優勝して群馬県での全国大会へと駒を進めました。女子選手1名も個人戦で全国大会に出場しました。冬の競技ではスピードスケートでも男子選手1名が全国大会に出場しました。

#### 〈10月〉見学旅行(第1班15、18日・第2班14、17日)

10月14日から2年生が2班に分かれて見学旅行に出かけました。関西方面への3泊4日の旅行でした。今年は大台風の影響で急な予定変更を余儀なくされて、出発日を変更したり日数を減らすことになりました。大変でしたが生徒全員が無事に旅行を終えることが出来ました。行く先々で普段は目にするのではない日本文化に触れ、多くのことを吸収できる有意義な旅行になりました。

#### 2020年

#### 〈1月〉センター試験

214名の生徒が北海道教育大学釧路校と釧路公立大学に分かれて受験しました。今年の3年生の受験率は90%超です。多くの先生方が寒い中、両会場まで激励にかけつけました。

以上で1年間の報告とさせていただきます。今後とも母校と後輩たちのために、どうぞよろしく願っています。

田中嘉寛(湖陵36期)

湖陵湖陵30期(1978年卒)の「還暦同期会」が昨年10月12日に鉦路市内のANAクラウンプラザホテルにおいて開催されました。同会には札幌など道内はもとろん、関東や関西方面など全国各地からおよそ130人が出席し、旧交を温めました。

音楽教諭で4組の担任だった藤原靖文先生の指揮による校歌斉唱で幕を開けた後、赤い「ちゃんちゃんこ」と帽子という、還暦スタイルに身を包んだ北山幸徳・代表世話人の挨拶でスタート。来賓として駆け付けてくださった和田信幸先生(1組)、熊谷勉先生(2



湖陵湖陵高等学校30期 還暦同期会

組)、高井博司先生(8組)などからの祝辞や、札幌在住の神成洋先生(5組)から長文のお祝いメッセージが披露されました。30期では、昨年開催された29期の先輩方の盛況ぶりに発奮して精力的な出席者集めに奔走。各クラス幹事が中心となり、7年前に最終幹事期として迎えた「開校100周年記念祝賀会」にも劣らぬ情熱を持って準備に取り組みました。

ただ一つ残念だったのは、関東地方を襲った大雨の影響により飛行機が欠航となり、出席を予定していた仲間約20人が来賓できなかったことでした。

クラスごとのテーブルに分かれた懇親会では、皆が高校時代に戻って思い出を語り合ったり、記念のスナップ写真を撮り合うなどしたほか、ひな壇でのクラス別写真では、最後のアルファベット学年だった1年時のクラス写真を撮影

するなど、終始和やかなムードに包まれていました。また、懇親会終了後の二次会も、引き続き同じ会場だとホテル側に依頼してあったため、ほぼ4時間に渡って十分に語り合うことができたこと参加者の好評を博しました。

「次は札幌で開こう」とか「いや、阿寒湖温泉で泊まりの方が」など、次回の構想も数多く提案されましたが、隔年でどこかに集まろうという意見が多かったことから、2年後(2021年)の再会を約束し、同期生たちは3次会となる夜のスエヒロに散って行きました。

西村貞広(湖陵30期)

※同窓生の皆さんの同期会、クラスのレポートを「くまざさ」では募集しております。掲載をご希望の方は、くまざさ編集委員会の星までお願いします。(連絡先は8ページに記載しています)

西堀校長が受賞 教育功績者表彰



昨秋、北海道教育委員会「令和元年度北海道教育功績者表彰」を発表、鉦路湖陵高校の西堀隆亮校長(湖陵30期)が受賞しました。同表彰は、長年に渡り北海道の教育振興に功績があった人に贈られています。表彰式は、昨年12月19日、札幌市内で行われました。

今年3月、母校の校長を最後に定年退職する西堀校長は「母校である湖陵高校に校長として戻ることができただけでも幸せなのに、まさか本表彰を受賞するとは夢にも思いませんでした。これまで自分を支えてくれた家族と全道の教育関係者・生徒・保護者の皆様にご心より感謝申し上げます」と話していました。

星 匠(湖陵30期)

編集後記

昨年10月、私たち湖陵30期卒業生の還暦記念同期会が鉦路市内のホテルにおいて大盛況のうちに開催されたことは、本紙面中でもご紹介させていただきましたが、おそらくは毎年同様の会が後輩諸氏の間でも行われることになると思いますので、老婆心ながら今回の企画内容をご披露させていただきますたいと思います。会で大好評だったのは、同期生全員の顔写真を卒業アルバムからスキャンし、当時のクラス名と氏名を印字した名札にプリントしたことです。こ



前列左から田巻、佐藤、堀川、奥田  
後列左から星、西村、須貝、青木

れは結構手間のかかる作業となりますが、卒業後42年も経過した現在、名前を見ただけでは容易に思い出せないほど風貌が変わってしまった(失礼!)級友でも、当時の顔写真があれば瞬時に当時の記憶が呼び覚まされることになりました。一度作ってしまったら、以降の同期会やクラス会でも繰り返し使用できますので、ぜひ作成することを奨めたいと思います。

西村貞広(湖陵30期)

鉦路湖陵高校

〒085-0814  
鉦路市緑ヶ岡3丁目1番  
TEL(0154)43-3131  
ホームページ  
<http://kushiro-kouyo.hp.infoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 堀川春昭(湖陵12期)
- 編集委員 奥田泰朗(湖陵25期)
- 編集委員 田中嘉寛(湖陵36期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-8650  
鉦路市黒金町7-13  
TEL 0154(22) 1111  
FAX 0154(22) 0050  
鉦路新聞社内 星 匠